

# 堵塞不如開導

北基行 訳

中国 紹興市 禹廟

## 塞ぐより開くほうが賢明

物体には、各種の共通性と、正反対の特異性が備わっている。休みなく継続する運動は、事物の共通性である。

物体は止まることを知らない運動力を具えており、人間がこの各種運動にたいして如何なる態度で臨むか、それがその動作が成功するか失敗するか、正しいか誤りかを決定する根本要因である。

人間は物体の運動力に対していかようにも対処できるが、結局のところ、相反する二種類の方法が考えられる。一つは物体の運動進行方向を遮断する塞止型、もう一つは運動方向を開き、導く開放型である。前者の思考は誤りで、失敗すること間違いない。後者は正しいから、勝利の彼岸にたどりつくことが出来る。

歴史上に、これらが検証できる故事や教訓がたくさん残っている。古いところでは、鯀（こん）と禹の治水伝説がある。

鯀の伝説は、古い書物にいろいろ残っているが、すこしずつ記載事項にずれがある。『山海経』の『海内経』では、鯀は神様として説かれており、人界で頻繁に発生する洪水を見るに堪えず、鯀が天上の“息壤”（注：

土の怪物）をこっそりと人界に送り治水をやらした。天帝がそれを見つけて激怒し息壤を殺した。一方、『尚書』『堯典』では違っており、堯が治水に鯀をやった。鯀は、河を塞ぎ止め氾濫を止めようとしたので、洪水の氾濫がますます広がり、人民の不満が絶えなかった。後に、舜が、四凶の一に数えて、鯀を羽山で殺した。『呂氏春秋』と『韓非子』等が記載するこの伝説は、『尚書』の記載と基本的に同じであり、この伝説が広く流布したことが認められる。

我が国の原始時代に堯、舜、鯀などの人物が存在したか否かの考証は別問題として、この伝説のみを見るかぎり、鯀の方法は、洪水奔流の自然法則に反しており、明らかに誤りで、失敗するのは当然であった。

これに反して、禹の治水方法は、うんと優れたものになっている。伝説で語られる大禹の治水は見事な大事業であり、各面で道理にかなうもので、単なる神話と軽視することは出来ない。

古書の記載するところによると、禹は鯀の子供であり、舜は禹の父を殺したうえに、彼を治水に行かせたが、禹は一言も恨み云わずに、天下の人々を救うことを己の責務としたのである。ここより古代伝説中の人物のスケールの大きさが別格であったことがわかる。禹は父の失敗を教訓に、父の手法を変換しようと試み、塞ぎ止める方法から、流れの誘導へ舵をきって、海へ流出させた。この方法は当然ながら自然の法則に合致するもので、彼を成功へ導いた。

古代伝説を盲目的に信じないが、治水の時代は新石器時代に相当し、原始的な最低の建造力で、滔々たる洪水に立ち向かったことは、容易に想像することが出来る。当時の洪水の伝説は、決して根拠のないものではなく、孟子は具体的に次の様に述べている。“禹（う）九河を疏（つう）じ、濟、漯を濶（おさ）めて諸（これ）を海に注ぎ、汝、漢を決（きり）ひらき、淮、泗を排し而して之を江に注ぐ、然る後中國得（え）て而して食（くら）う可きなり。”この記録を一概に抹殺してもよいだろうか。伝説から、古代の人々の教訓に光を当てることができれば、素晴らしいことではないか。

### 【語句解釈】

禹疏九河，濶濟漯而注諸海——禹は多九の河を疎通させ、濟、漯を浚いそれぞれ海に注がせた。九河：朱熹は河の名を挙げる。多くの河と解する人もある。濶（やく）：治水工事をする。（孟子：滕文公章句上）

【掲載当時の時代考証と秘められたメッセージ】

## 『堵塞不如开导』ひとそえ

古来いづこの土地でも河川の整備は国の始まりであり、その礎でもあり、権力発露の場であった。多くの伝説の水利事業家が治水手法を堵塞型とするか？開導型を採用するか？知恵を絞ったことであろう。

水を堤防（塘）で強引に食い止め制御する手法か？

水の自然な力に合わせて流れを穏やかに誘導していく手法か？

山に降った雨がすぐに海に注ぐような、河と言うより滝のような日本の地形に慣れた身には、大国の水利手法の是非の判断はつきにくいの一つだけ連想する事例を思い出した。

1938年6月、河南省開封市付近の黄河の堤防を爆破決壊させて、大洪水を発生させた事件がある。北からの日本軍の勢いを止める為の作戦であり、当然ながら自国民の被害も甚大であったと伝えられる。河川を切って敵の侵攻を阻止する戦法は、背水の陣とともに使われてきたとされるが、この時ほどの大規模の「身を切る戦法」は聞かない。その後の中国の民の心に、歴史にどのような影響を与えたのか量りしれない。

滝のような小さな河川の中で人間模様を「大河ドラマ」と称する国からは、掛け値なしの大河と民のスケールは量りにくい。

井上邦久

## 堵塞不如开导 原文

一切事物都有各不相同的种种特征，同时，一切事物又必定有它们的共同性。不停的运动应该算是一切事物的共同性之一。

因为一切事物都有不停的运动的力量，所以人们对待各种运动的力量采取什么态度，则是决定人们的所作所为成功或失败、正确或错误的一个根本问题。

人们对待事物运动的力量也可以采取种种不同的态度。归结起来，有两种态度是正相反对的。一种是堵塞事物运动发展的道路；一种是积极开导使之顺利发展。前者是错误的，注定会失败；后者是正确的，必然会胜利。

历史上这样的故事和经验教训非常多。最古的最著名的是鯀和禹治水的传说。

关于鯀的传说，在许多古籍记载中颇不一致。《山海经》的《海内经》说鯀是天神，不忍见人间饱受洪水的灾害，偷了天上的“息壤”到人间来治水，天帝震怒把他杀了。但是，《尚书》《尧典》记载了另一情况，就是说，尧派鯀去治水，鯀用堵塞的方法，以致洪水越闹越大，人民不满，后来舜把他作为四凶之一，杀死在羽山。《吕氏春秋》和《韩非子》等书记载这个传说，与《尚书》的记载基本上相同，应该认定这是流行比较广的传说。

我们且不去考证我国原始社会时代是否有尧、舜和鯀等人的存在，只从这个传说来看，那末，很显然可以断定鯀的治水方法是错误的，他完全违背了洪水奔流的自然规律，其结果只能是失败。

与此相反，禹的治水方法就比鯀高明得多了。传说中的大禹治水是非常了不起的伟大事迹，这里面包含着很重要的道理，不可仅仅作为等闲的神话传说来看待它。

据古书记载，禹是鯀的儿子，舜杀了他的父亲，又叫他去治水，他却并没有怨言，而以拯救天下人为己任。可见我国古代传说中的人物风格也很高。禹鉴于他的父亲失败的教训，决心改变他的父亲的做法，不用堵塞而用开导的方法，使洪水畅流入海。这个方法符合于自然的规律，结果当然就胜利了。

我们并非盲目相信古代传说。我们知道，禹治水的时代乃是新石器的时代，以原始的最低的生产力，决难制服滔天的洪水，这是显而易见的。但是，关于当时洪水的传说，决不是没有根据的。同样，大禹治水的传说也不能认为毫无根据。孟子还特别具体地说：“禹疏九河，濶濟漯而注諸海；決汝漢，排淮泗而注之江，然后中国可得而食也。”这些记载岂可一概抹杀？我们如果从这一个传说中，能够领会一些古人的经验教训，岂不是更好吗？

燕山夜話 第1集24話 堵塞不如开导



中国 黄河の大瀑布「壺口瀑布」



紹興市 山上の禹像



黄河決壊事件